

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.4.18)

今回の試聴対象の **Super-HL5-Plus** は BBC モニターとして開発されたものの流れを引く名機 **HL5** の最新後継機で試聴会の使用機材は次のとおりです。

<使用機材>

スピーカー：ハーベス・**Super-HL5-Plus**

A 級ステレオパワーアンプ：アキュフェーズ・**A-70**

プリアンプ：アキュフェーズ・**C-2420**

SACD プレイヤー：アキュフェーズ・**DP-720**



ハーベス スピーカーシステム **Super-HL5-Plus** ¥648,000 (ペア)



アキュフェーズ プリアンプ **C-2420** ¥734,400



アキュフェーズ 純 A 級ステレオパワーアンプ **A-70** ¥1,188,000



アキュフェーズ SACD プレーヤー DP-720 ¥1,188,000

<試聴の経過>



試聴の前半はジャズから始まり、ボーカル5曲を挟んでジャズに戻り、ついでクラシックと続きました。試聴の間には Super-HL5-Plus 開発の経過、ユニットやキャビネットやグリルの仕様、スピーカー台設計のコンセプト、マーケティング戦略などを取り混ぜ、今回のデモの説明を担当されたハーベスに集中して輸入されている責任者の思い入れと知識が披露されました。

ボーカルは歌謡曲からジャズまで、女声、男声とりまぜて5曲ほどかかりましたが、いずれも声の表現は自然で強調感がなく、バックのバランスも取れており、伴奏のギターなどもリアルな音がしていました。ジャズは正統派のクラリネットとサックスの曲でしたが、これもこの種の音楽にありがちな押し付けがましいとことがなく、生演奏を聴いているような印象すらありました。

後半のクラシックではピアノ、ヴァイオリン、オケと続きましたが、ピアノは美音、ヴァイオリンはディテールの描写にすぐれた表現力がありました。オケはサンサーンスの交響曲3番4楽章でしたが、オルガンのファンダメンタルの再生には無理があるものの、オケ全体のバランス良く、パートの分離の良さが目立ちました。

このスピーカーの特徴は音が背後に展開し、オケやコンボの各パートの位置関係がはっきり分かるようでした。また、プレイヤーとアンプはアキュフェーズでしたが、美音系でありながら、やや平面的な描写に終始するアキュフェーズらしからぬ音がしていました。

本機は現在使用中の FAL C90EXW と相通ずるところもあって非常に好感を持ちました。ステレオ5月号にも本機の記事が出ていましたので別途紹介いたします。